

雲南市の教育

雲南市の教育行政の基本方針

「学校、家庭、地域（企業）、行政の
協働によるキャリア教育の充実」

プラチナ構想ネットワーク研修会資料
平成26年5月22日

◆雲南市教育行政の基本的な考え方

- ①学校教育と社会教育の協働による教育の充実
- ②社会教育の役割の明確化と社会教育の充実
- ③学校内外における「人・もの・こと」との出会いの場の設定

◆キャリア教育に対する基本的な考え方

①学校教育と社会教育の協働によるキャリア教育の充実

②学校、家庭、地域(企業)、行政の協働を推進するシステム

- コーディネーター制度（2重3重のコーディネーションシステム）
- 教育支援コーディネーターの配置 ○地域コーディネーター
- 社会教育コーディネーターの配置

③学校教育と社会教育の目標の共有化

「夢」発見プログラムによるキャリア教育の推進

- 実践例 ○「夢」発見ウィーク「職場体験」 ○「幸雲南塾in三瓶」
 ○「カタリバ」 ○「不登校対応プログラム」

約45年後の日本

(文部科学省・提出資料)

2010年

人口：約1億2800万人

高齢化率：23%（4人に1人が高齢者）

現役世代2.8人で1人の高齢者を支えている。

2055年

人口：約9000万人を割り込む

高齢化率：41%（2.5人に1人が高齢者）

現役世代1.3人で1人の高齢者を支えている。



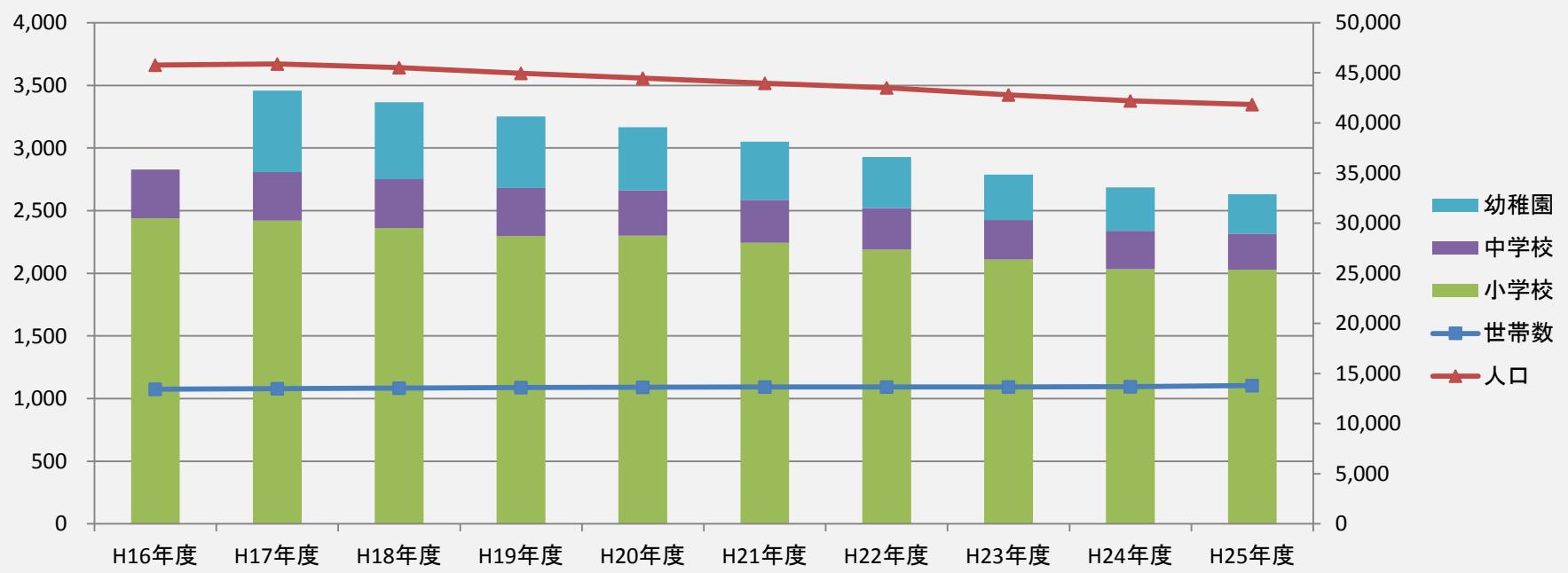
幸運なんです。
雲南です。

I 雲南市の概要

平成16年11月1日、雲南市誕生

- 人口・・・41,472人（平成26年2月末現在）
- 面積・・・553.4km²
- 世帯数 13,786世帯 高齢化率 33.42%
- 幼稚園12園、小学校16校、中学校7校
- 交流センター29施設（公民館から交流センターへ・平成22年4月）

雲南市
加茂岩倉遺跡をはじめとする多くの遺跡や古墳、神社があり、地名の由来は、「出雲風土記」にたどることもできます。



雲南市の子どもたちの課題

全国学力・学習状況調査や雲南市独自の生活実態調査の結果から……

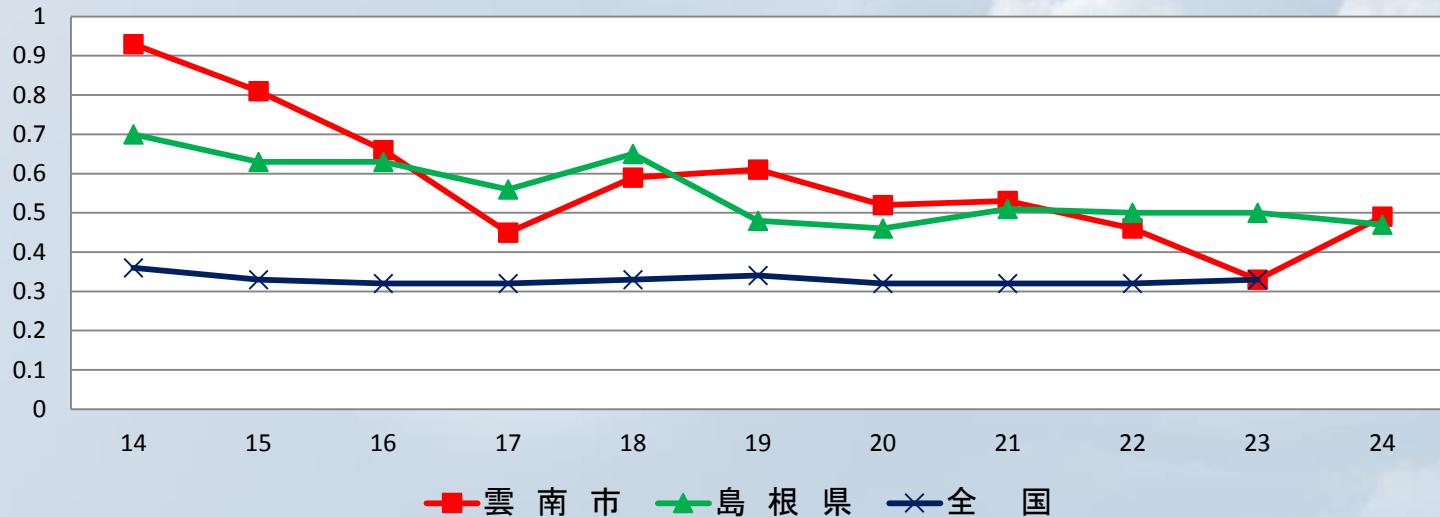
自己肯定感の低さ

集団生活において
人と関わる力

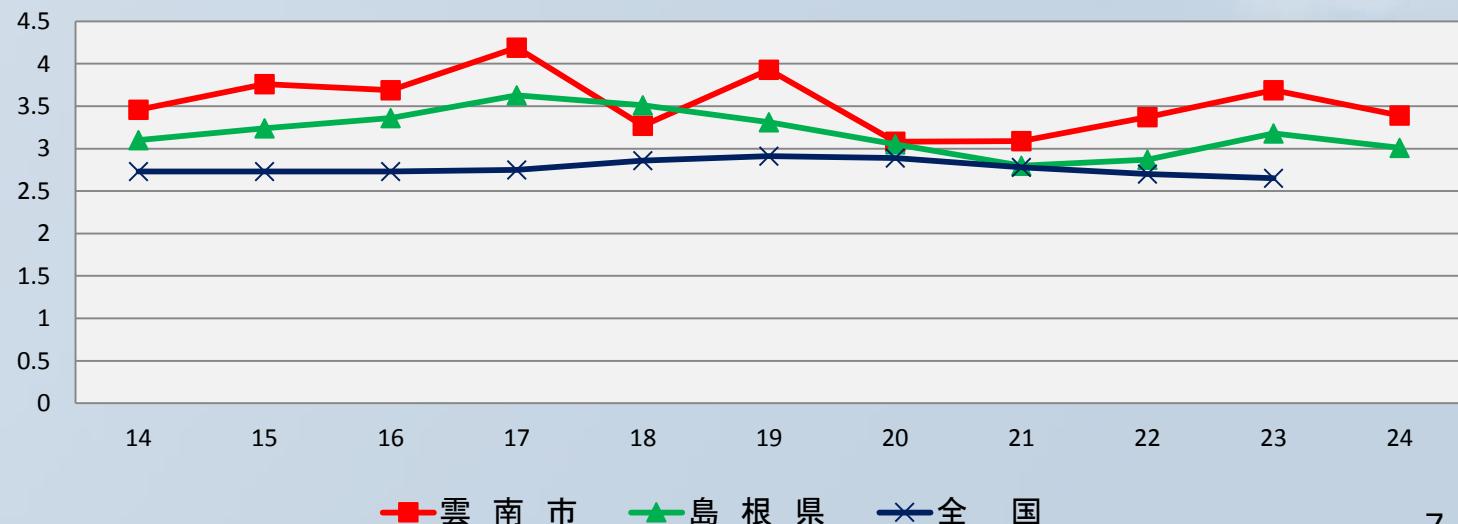
不登校の状況

雲南市・島根県・国の全児童生徒数に占める不登校の割合

● 小学校



● 中学校



持続可能な社会を実現する基盤



「教育」

「人材育成」

持続可能な社会の「創造」



人材育成のため

新たな雲南省版社会モデル



学び続ける機会と場の設定

「生涯学習社会」の実現

第2期教育振興基本計画の理念

持続可能な社会を創る人材育成

○ 教育において……

「新たな社会モデルの創造を
どう実現していくのか」

○ そのために……

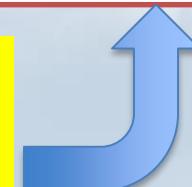
「学校、家庭、地域（企業）、
行政がどう協働していくのか」

「生涯学習社会」
が目指す人材養成

「ふるさとを愛す」
「国を愛す」
「世界を愛す」



持続可能な社会
を創造していく人材



目指す人間像

社会を生き抜く力

知識

知恵

意欲

養成

未来を切り拓く力

多様な
個性・能力

他者との
協働による
新たな
価値の創造

「生涯学習社会」
が目指す人材養成
のキーワード

教育理念の実現



新たな社会モデル

生涯学習社会の実現

第2期教育振興基本計画の理念

「自立」

- 一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる

生涯学習社会

「協働」

- 個人や社会の多様性を尊重し、
それぞれの強みを活かして、共に
支え合い、高め合い、社会に参画
することのできる

生涯学習社会

「創造」

●これらを通じて更なる新たな

価値を創造していくことのできる

生涯学習社会

雲南市における新たな社会モデル

生涯学習社会の実現

キーワード

①人々が学び続ける社会（生涯学習と人材育成）

②人と人がつながる社会（絆の再構築）

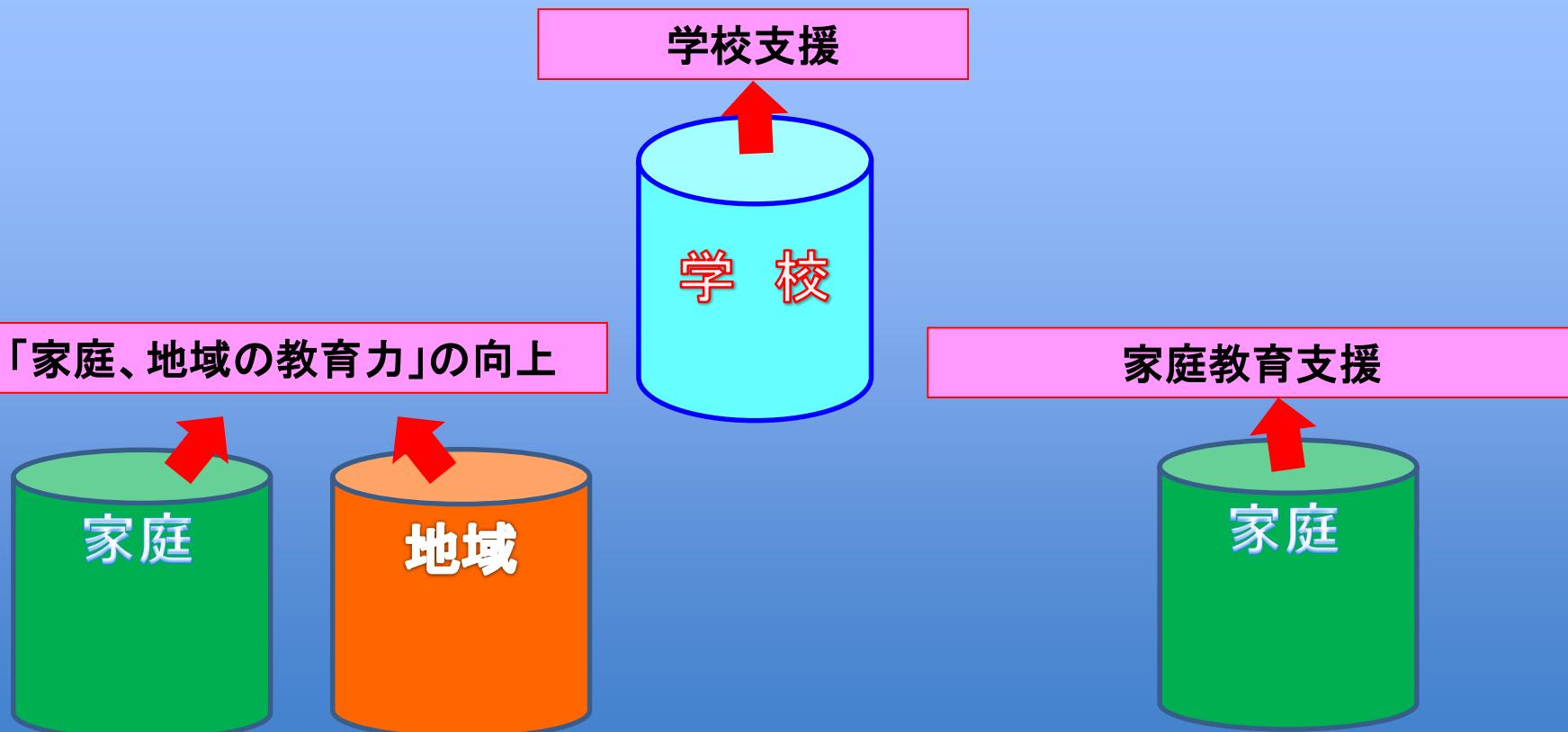
③人々が新たな価値を創造する社会
(自己実現・社会貢献)

「学校教育」と「社会教育」
の協働による教育の充実

市民一人一人の生涯にわたる学習の支援

新たな社会モデル 生涯学習社会の実現

「社会の要請に応える社会教育の充実」



Ⅱ. 雲南市教育行政

雲南市教育行政の基本的な考え方

▶▶▶ 学校教育と社会教育の「協働」を目指す

- ・教育行政の大きな柱を…「社会教育」とする。

社会教育から「学校支援」という視点

雲南ブランド化プロジェクトと特色ある学校づくり

▶▶▶ 学社協働による「特色ある学校づくり」

「雲南市で育って良かった。」
「雲南市の学校に行かせてよかったです。」
「雲南市に勤務して良かった。」

実感できる教育
の実践

Ⅱ. 社会教育に対する基本的な考え方

社会教育の定義

学校の教育課程として行われる教育活動を除き、
主として青少年及び成人に対して行われる
組織的な教育活動(意図的・計画的・継続的)

社会教育は、生涯学習を支援する教育として位置づけ、
生涯学習の振興、推進の中核的な役割を果たすものと考える。

III.社会教育推進の背景となる 関連教育法の改正

- 教育基本法の改正
- 教育3法の改正
- 教育振興基本計画の策定
- 社会教育関連3法の改正
(社会教育法・博物館法・図書館法)

教育基本法の改正にともなう新設項目(抜粋)

第3条(生涯学習の理念)

～省略～ あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現

第10条(家庭教育)

父母その他の保護者は、子の教育について**第1義的責任**を有するものであって、～省略～

保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援

第12条(社会教育)

個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

第13条(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努める

学校教育法第30条（小学校教育の目標）第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うこと、特に意をもちいなければならない。

(学力を規定)

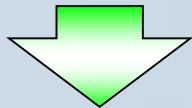
学校教育法 第31条(体験活動の充実)

小学校においては、前条第1項の規定による目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、

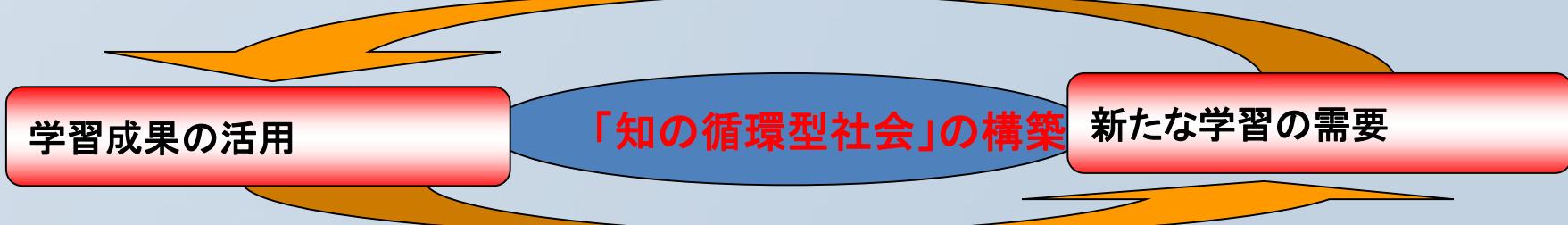
児童の体験的な学習活動、特に、ボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。

この場合において、社会教育関係団体
その他の関係団体及び関係機関との連携に
十分配慮しなければならない。

=答申のポイント=



- 生涯学習振興行政と社会教育行政の役割の明確化
(生涯学習振興行政→固有の領域)
- 社会教育と学校教育「目標の共有化」
- 学校は国民の教育に対して責任を負う教育機関であるが、学校教育のみで
教育課題すべてを解決していくことには限界がある
- 社会全体の教育力の向上
学校+家庭+地域 ～地域の課題・目標の共有化～



教育振興基本計画(平成20年7月1日)

今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

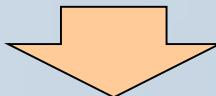
抜粋

①「横」の連携：教育に対する社会全体の連携の強化

学校→ややもすれば閉鎖的になりがちである

様々な分野からの協力を得て地域に開かれたものにする

②「縦」の接続：一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現



社会全体で教育の向上に取り組む

○学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体の教育力を向上させる。

○家庭の教育力の向上を図る。

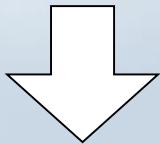
社会教育法の改正のポイント

**社会教育の重要性・果たす役割の明確化
(社会の要請に応える社会教育)**

- ・学校教育と社会教育の融合・連携
(社会教育主事の学校への助言)
- ・学校支援
- ・家庭教育の支援

今、雲南省教育委員会が目指している
社会教育とは？

社会の要請に応える社会教育



子どもたちへの教育支援

+

大人の学習活動

雲南市キャリア教育の特色

推進システムの構築

学校、家庭（保護者）、地域（企業）、行政の役割の明確化

「夢」発見プログラム

学校教育と社会教育の協働で推進する教育実践プログラム

コーディネーター制度

教育支援コーディネーター・社会教育コーディネーターの配置

学 校
家 庭(保護者)
地 域(企 業)
行 政

の「協働」による
キャリア教育の
充実と推進システム

「協働」を推進するキーワード

対 等

信 頼

学 習

目標の共有化

実践プログラム

協働の推進役・・・

コーディネーター

雲南市キャリア教育推進システムの特色

実践プログラム

学校教育と社会教育の協働プログラム

「夢」発見プログラム (義務教育版・幼児期版)

コーディネーター

学校配置

2重3重のコーディネーションシステム

- ①教育支援コーディネーター(教育委員会職員)
- ②社会教育コーディネーター(教育委員会職員+嘱託職員)
- ③地域コーディネーター(地域住民)

学校、家庭、地域、行政の 「協働」を推進するシステム

学校支援

教育支援コーディネーター（行政職員）

中学校区に7名配置（教育委員会職員）の中学校区配置(H18～)

学校教育
の充実

地域コーディネーター（地域住民）

全ての小学校（18校）に地域人材18名配置（25年度）

（地域人材）の学校配置（学校支援地域本部）(H20～22全ての小中学校28校に30名配置)

地域の教育
力を学校へ

社会教育コーディネーター

拠点小学校7校に7名配置

（教育委員会職員1名・嘱託職員6名）を拠点小学校へ配置(H23～)

社会教育
の充実

「学社協働」の推進の要

教育支援コーディネーター（行政職員）



社会教育コーディネーター



雲南市のコーディネーターの配置

中学校区

大 東

海 潮

加 茂

木 次

三 刀 屋

吉 田

掛 合

中学校区内での各CN配置

大東

大東中学校

教育支援コーディネーター(H18年度)
市内各中学校へ配置

大東小

西 小

佐 世 小

阿 用 小

久 野 小

社会教育コーディネーター(H23年度)
各中学校区の小学校拠点校に1名配置

地域コーディネーター(H20年度)

学校支援地域本部事業を活用
市内全小学校に1名配置

「夢」発見プログラムとは？

雲南市の子どもたちが、ふるさと雲南市に誇りをもち、社会に積極的に参画していくこうとする「意欲」「能力」「態度」を発達段階に応じて社会を生き抜く力を育てることをねらいとした雲南市独自の学習プログラムである。

- 各教科等と「総合的な学習の時間」や「生活科」などとの関連を図りながら、全教育活動の中で取り組んでいく。

学社協働の推進プログラム(雲南市の事例)

「夢」発見プログラム

「夢」発見プログラムの策定
(キャリア教育推進プログラム)

「生きる力」を発達段階に応じて育む
「総合的な学習の時間」の見直し

社会総がかりで子どもたちの育成
「夢」と「自信」をもたせる

学校教育と社会教育の『目標の共有化』『明確化』

キャリア教育でめざす子ども像

「いのち」を大切に
する子ども

社会に貢献
できる子ども

ふるさとに誇りをも
つ子ども

健康で自立した子
ども

平和と人権
・永井隆博士の生き方を
学ぼう
・人権教育

世の中のしくみと勤労
・ものづくり、収穫体験
・福祉施設等での交流
・職場体験学習

自然環境 歴史と文化
・ヤマタノオロチ伝説
・私のまちの伝説や文化
・神話の里スポットめぐり

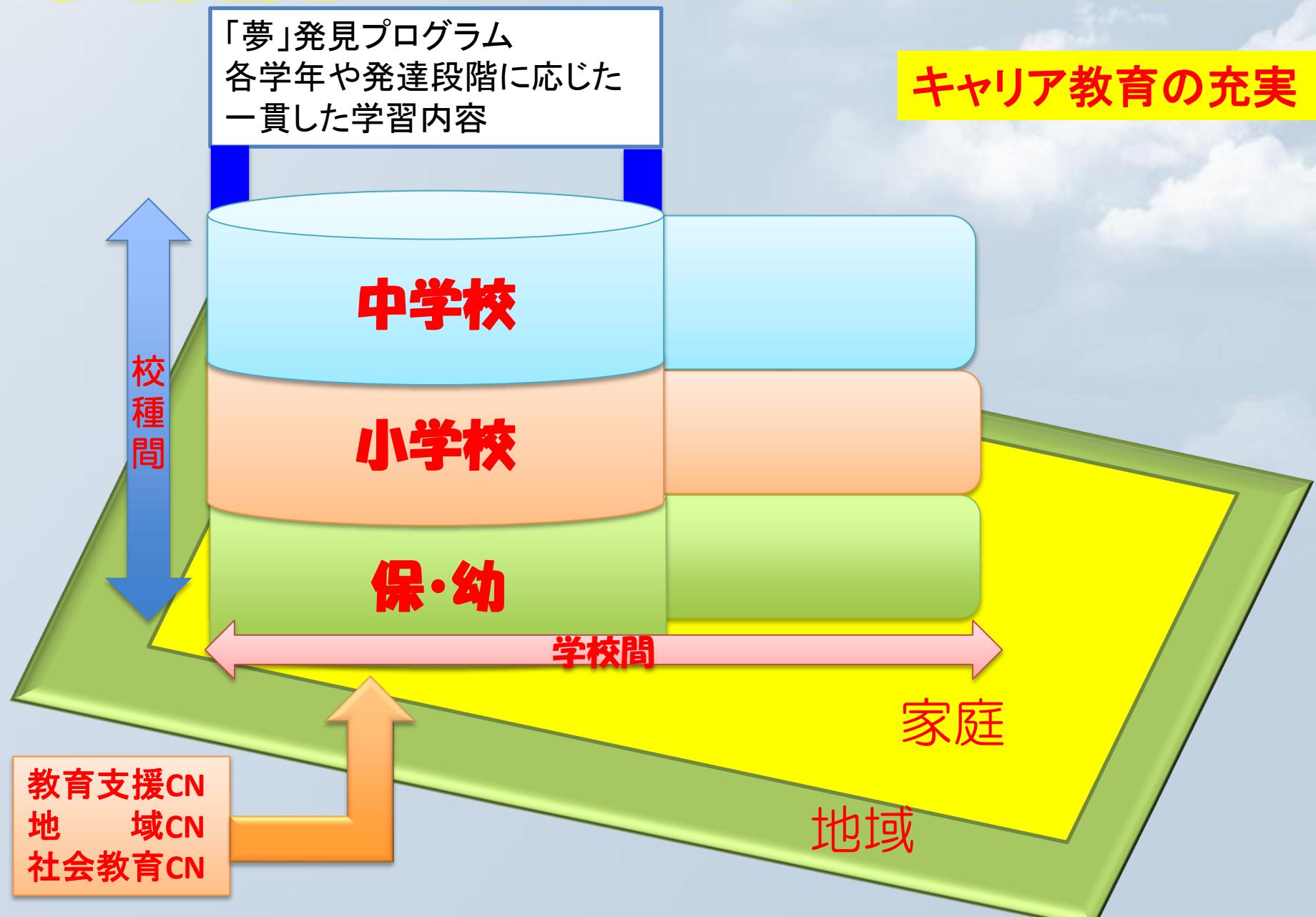
基礎体力生活リズムと「食」
・ノーメディアの日
・お弁当の日

共通題材として雲南市の全ての保育所・幼稚園・小・中学校で系統的に取り組む

「共通題材」の特徴

- 雲南市の豊富な教育資源を活用
(雲南の人・もの・こと)との出会い
- ◆ 平和と人権…「永井隆平和賞」市内6年生・全員参加
- ◆ 世の中の暮らしと勤労…「職場体験学習」
市内全中学3年生・全員参加
- ◆ 基礎体力・生活リズムと食…「お弁当の日」
市内すべての小学校で実施
- 学校教育、社会教育、家庭教育の場で実践

「夢」発見プログラムによるつながり



学校現場の受け止め方・…

- 意識……「特定の新しい教育活動を展開していく」ということではない。
- 現在の学校教育全般を
「キャリア教育の視点」で見直す。

平成25年度・・・社会全体へ

- 「夢」発見プログラムの充実
家庭、地域との連携・協働を具体的に示す。

発達段階に応じた
「家庭」、「地域」の役割の明確化

- 家庭、地域自主組織を中心に「家庭版」「地域版」・・・「夢」発見プログラム

グローバル人材の育成を目指して

- ・ 異質な世界に己を開き、強い意志を持って高みを目指すような人材
 - ・ 「グローバル社会を生き抜く力」
 - ・ 初等中等教育における基礎づくり
 - ・ 「将来にわたって学び続ける意欲」

社会教育による土曜学習の充実

○キャリア教育

「自分をつくる楽校(がっこう)」

中学生・高校生対象の外部人材を
活用したキャリアアップセミナー

○体験活動

「あつまれ！わくわく教室(仮称)」

社会教育を開催している事業所と連携
した小学生対象の体験活動プログラム

学校教育と 社会教育の 協働による キャリア教育プログラム の実際

教育支援(地域)コーディネーターの業務

学校支援地域本部事業(文部科学省)

学校支援ボランティア活動

- 学校支援ボランティアが参画した活動のコーディネート(授業の補助、部活動の指導、図書の整理、読み聞かせ、環境整備、登下校の見守り等)
- 地域住民へのボランティア参加の呼びかけ
- ボランティア活動の企画

教育支援コーディネーターの業務

校長の学校経営推進に係る業務

- 特色ある教育の推進

中学校区を中心とした一貫教育の推進

- 保幼小中連携(小6交流会の実施、5歳児交流会の支援、教職員の集い)
- 地域教育協議会の開催...社会教育CNと協働

「夢」発見プログラムの推進

- 教育委員会の事業(「夢」発見ウィーク、カタリバ、幸雲南塾)
- ふるさと教育の充実(総合的な学習の補助)
- 不登校対応(別室登校生徒への関わり)

学校と行政のパイプ役

- ALT日程調整、スクールバスの手配など
- 災害時の連絡
- いじめ対応(ケース会議)
- 就学指導委員会

中学校区を中心とした一貫教育推進

教職員の集い地域研修



小6交流会・5歳児交流会



学校と地域の連携

ごみゼロ作戦～地域のみんなでまちをきれいにしよう～



教育支援コーディネーターが、小学校、中学校、高校、保育園、地域自主組織、交流センター等とのコーディネートを行い、実行委員会を開催。



高校生・中学生がグループをリード。



『夢』発見ウィーク(職場体験学習)の運営

『夢』発見ウイークまでの流れ

⑥職場体験の振り返り

お世話になつた方に、お礼の手紙を書いたり、反省を行います。

『夢』発見ウイーク実施時

- ◆生徒が各自、お世話をなつた事業所へ「お礼の手紙」を書く。
- ◆「お礼の手紙」を教育委員会で一括とりまとめ、事業所ごとに一齊に差付。

9月



そして、「夢」発見ウイークスタート！



⑤職場体験本番
連続3日間同じ職場で実地体験を行います。スタートは自宅から始まります。

8月

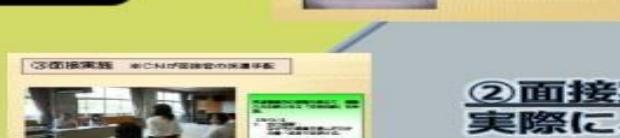
④職場事前訪問

職場体験当日にむけて、実際に、職場を訪問し、勤務時間や服装などの打ち合わせを行います。

③職場決定

職場決定通知が届き、職場事前訪問の用意に入ります。

7月



②面接実施

実際に、選択した仕事場の希望理由を基に面接

6月



①希望する職場を選ぶ
自分が興味のある仕事場から3つを選択

事前訪問の目的

- ◆自分を知ってもらう(夢発見カードを持参)
- ◆事業所の方に会い、職場の雰囲気を知り、当日までの不安軽減を図る。
- ◆一緒に働く仲間(他校生)との顔合わせ。
- ◆事業所と事務的なことを確認する。(通勤方法や出勤時間、服装、準備物等)

カタリバ実施によるキャリア教育の充実



- 5月 企画
- 6月 カタリバ事務局と連絡調整
スタッフ人数確認、日時調整
- 7月 カタリバ事務局と連絡調整
大学生の移動手段の確認
宿泊場所の手配
- 8月 前日 大学生送迎
当日 大学生・中学生送迎
事後の振り返り 感想まとめ

カタリバのおかげで、なんとなくでも未来の自分への考えがまとまった気がします。それに、先輩方のお話は、とても心にひびきました。私もがんばって、今の自分を少しずつでも変えながら、夢を追いかけたいと思います。
(女子)

「夢があるから、頑張る」のではなくて、「頑張れるから、夢がある」すごく共感しました。(男子)

学校と行政の緊密化

☆他部局との連携

- ・社会福祉協議会...サマーボランティアスクール(福祉体験学習)の募集・補助
- ・地域振興課国際交流グループ...ホームステイの募集・補助
- ・健康福祉部...就学前児の個別相談への接続
- ・各総合センター...地域の祭りの部活動等の参加調整

☆教育委員会との連携

- ・緊急時の迅速な対応

　災害対応...行政の情報提供・指示、通学路点検

　いじめ対応...ケース会議の記録

- ・学校全般の情報交換

社会教育コーディネーター

地域での子どもにかかる社会教育事業への支援(社会教育専門職として)

- 通学合宿、自然体験など
- 地域自主組織等との連携・情報交換
- 学校支援地域本部事業支援
- 放課後子ども教室支援

「夢」発見プログラムの推進

- 幸雲南塾inさんべ
- 不登校児童生徒支援体験プログラム(にこにこ広場)
- ふるさと教育プログラム(キヨロバス、森の工作、ヤマタノオロチツアー)
- 高校生・大学生との連携

家庭教育支援

- 親学プログラム実施

不登校児童生徒支援プログラム

H25年度 15回実施予定(10回実施) のべ57名参加

7	8	9	10	11	12	1	2	3
自然体験プログラム		ダンスを中心としたプログラム 影絵劇を中心としたプログラム 楽器演奏を中心としたプログラム 自然体験・創作活動を中心としたプログラム	発表	しまね自然の学校との共催 (企画・プロジェクトリーダーは岡野氏)				

1日の流れ

10	11	12	1	2	3	4
学習支援	昼食	体験プログラム	振り返り・ 自由時間	下校		



大学生・高校生との連携

H23年度・・幸雲南塾に大学生スタッフ4名参加

H24年度・・幸雲南塾に大学生スタッフ16名、高校生スタッフ16名参加

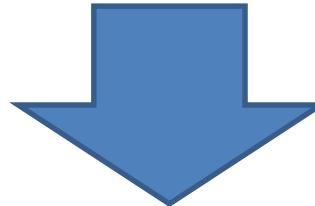
H25年度・・幸雲南塾に大学生スタッフ23名参加(高校生は定期テスト期間と重なったため不参加)

キヨロパスツアー(大学生、高校生企画のツアー)実施

大学生4名、高校生7名参加

ヤマタノオロチツアーガイドを高校生が担当

高校生6名参加



「ナナメの関係」を生かすことで、小学生・中学生の活動意欲は飛躍的にあがっている



地域でつなぐキャリア教育モデル事業指定

プラチナ会議での大学生・高校生の参加

うんなん若者会議へ発展

地域での社会教育

・地域での社会教育活動の増加

コーディネーター配置以降に新たに始まった事業

・子どもの参加が増える 自主組織設置後の社会教育の担保

・地域での子ども事業が増える (H25年度 市内キャンプ・通学合宿実施数 26)

H23年度	西日登通学合宿、三新塔子どもキャンプ、斐伊子どもキャンプ
H24年度	三刀屋通学合宿、大東子どもキャンプ、掛合・松笠通学合宿、三刀屋子どもキャンプ
H25年度	阿用通学合宿、掛合子どもキャンプ

・地域での社会教育活動の充実(ねらいを明確にした社会教育活動の増加)社会教育専門職としての関わり

○地域ボランティアスタッフの増加

○プログラム内容の多様化

○家庭を巻き込んだプログラムの実施

○通信発行での「ねらい」の周知

○地域自主組織での社会教育活動支援

通学合宿 キャンプ 円卓会議 放課後子ども教室



家庭教育支援

家庭教育支援に関する講座（「親学」プログラムの実践）
保育所・幼稚園・小中学校保護者対象）

H23年度・・6講座 H24年度・・8講座 H25年度・・15講座（予定）

（多くの講座はCNがファシリテーター）

ファシリテーター数（4年間で養成）

H25年度 25名（うち社会教育CN6名。社会教育CN経験者6名）



CN制度に関する声(CNについてのアンケートより)

学校・園関係者

地域との交流を深めたい願いがあったので、CNがいて、幼稚園と交流センター(地域・高齢者)との仲人みたいです。幼稚園だけでやっていたものが、地域をまきこんでさらに交流を深めることができた。

CNがいることによって、小学校、幼稚園個々の活動だったものが、連携して活動できるようになった。

学校、保護者、地域とのパイプ役として効果があった。保護者との間に入って要望や意見を伝えた。また、地域の方からの意見を学校に伝えるというパイプ役になった。

家庭・地域関係者

お年よりの方は子どもとふれあうことが少ないので非常に喜んでおられた。本当によかったです。子どもに元気をもらった。

これまで大人の方との交流はあったかもしれないけれど、子供との交流はあまりなかった。幼稚園もお年寄りさんと触れ合うことをされるとお互いにいい。

CNが来てくれて新たな企画ができるようになった。この事業は続けた方がいい。学校と地域をCNが接着剤としてつなげてくれている。

小学校の邪魔をしてはいけないと思って、連携しづらかったが、CNが小学校とのパイプ役になってくれた。



「夢」発見プログラム

雲南市キャリア教育推進プログラム



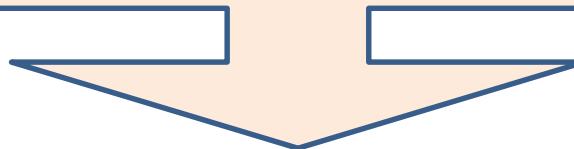
* 雲南市キャリア教育目標

ふるさと雲南への誇りと
将来への夢や希望をも
ち すすんで社会貢献し
ていこうとする心豊かで
たくましい子どもとの育成

* 雲南市がめざす子ども像は

知恵と勇気と誇りをもった

たくましい雲南の子ども



「夢」発見プログラム
雲南市キャリア教育推進プログラム

*『夢』発見プログラムの特徴①

**発達段階に応じたキャリア形成を体
系化したキャリア教育プログラム**

(例)人間関係形成・社会形成能力

就学前児	小学校(低)	小学校(中)	小学校(高)	中学校
友達と関わりをもち、共に活動する。	友達との関わりを通して、学び合い、助け合う。	自分と友達の良さを認め合う。 自分を支える人に感謝する。 下学年の活動を支える。	自分と友達の個性を認め合う。 他者のためにできることをする。 下学年の活動をリードする。	自他の個性を尊重し合う。 他者を支える人になる。 自治意識をもつ。 進んで社会貢献する。

*『夢』発見プログラムの特徴②

学校・家庭・地域が目標をひとつにする学社協働の教育プログラム

家庭のかかわり

→食 メディア 生活リズム 等

地域のかかわり

→あいさつ 体験活動 等

*『夢』発見プログラムの特徴③

雲南のひと・もの・ことを系統化した
教育プログラム(→ふるさと教育の要素)

平和と人権

世の中の仕組
みと勤労

自然環境・
歴史と文化

基礎的体力・
生活リズムと「食」



社会から学ぶ！

「『夢』発見 ウィーク」(中3職場体験学習)

ねらい

- ・義務教育9年間で育んだ「社会でたくましく生きぬく力」を実社会でためす。
→あいせつ、コミュニケーション能力、積極性、
ひたむきさ、人権感覚、先を読む力 etc...
- ・学校、家庭、地域が目標を共有し協働して子どもを育てる。
→社会全体の教育力の向上、子どもを通したつながり

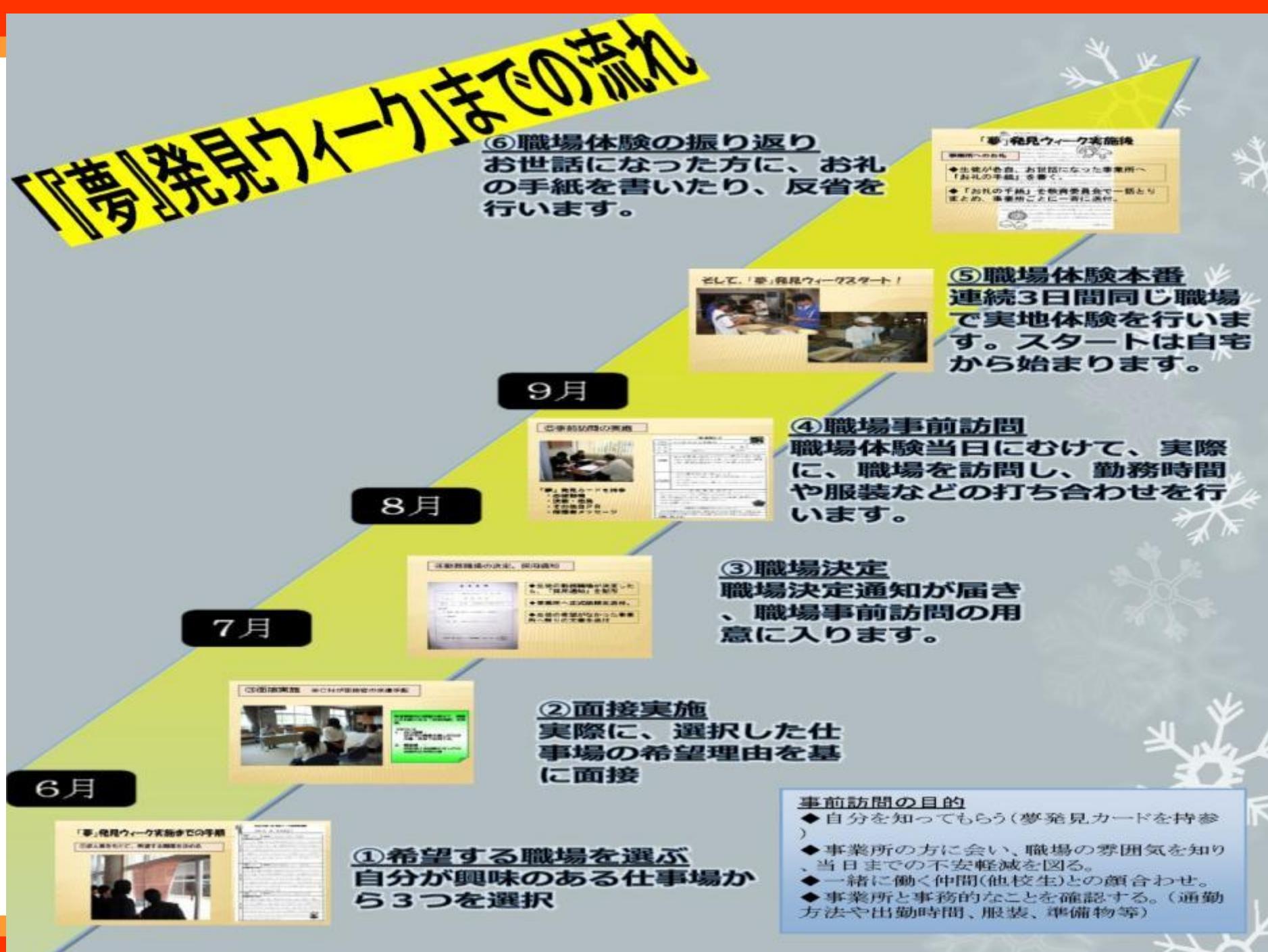
『夢』発見ウィーク(職場体験学習)の特徴

★市内7中学校が同一日程・市内全域で活動する。
→合同だからできることは…

・生徒の職場体験先の選択肢が広がる。
(H24年度は175事業所が受入表明)

・他校生との交流ができる。
(人間関係づくり・雲南市民意識の醸成)

・各校がそれぞれで実施する場合と比べ、受入先事業所の負担軽減が図れる。



幸雲南塾inさんべとは？

雲南市内中学3年生の希望者を対象に、さらなるキャリアアップを目指す2日間の宿泊セミナー

日 程：2013.9/28～29

場 所：国立三瓶青少年交流の家

参 加 者：雲南市内の中学校3年生の希望者131人（全体の約33%）

「幸雲南塾inさんべ」のねらい

- 雲南市の仲間としての一体感
- ふるさと雲南への自信と誇り
- 雲南市の次世代を担うリーダー育成
- 人との出会いの場
- 夢に向かって進んでいこうとする意欲
- 夢を実現するためになすべきことを考える
- 志を立て、努力していこうとする自己意識
- 受験に向かう意欲（受験の受け止め）

2日間の構成

● 大学生の企画・運営によるレクリエーション
中学生の心ほぐし、体ほぐし



● 白熱教室①

今の自分を振り返り、様々なロールモデルから大切にしている「ことば」を学ぶ



● キャリアアップワークショップ

16種類の講師から仕事や人生についての考え方、大切にしている「ことば」を学ぶ



● 白熱教室②

これから自分の支えとなる「ことば」をつくり、それを宣言する。

キャリアアップワークショップ

16職種の講師から

- ①仕事についての考え方
- ②人生についての考え方
- ③大切にしている「ことば」

を学ぶ

16職種の仕事人

半雲南塾 inさんべ

●:県内、○:県外

- 福祉
- 保育
- 調理師
- 政治家
- 行政
- 農業
- 報道
- 警察

- パイロット
- 医療・看護
- 教育NPO
- プロサッカーコーチ
- ホースセラピー
- 歌手
- 教育関係企業
- 税務署



農業



プロサッカーユース



創作料理店オーナー



ホースセラピー

臨床検査技師・看護師







白熱教室2

- ④職業人から学んだこと
- ⑤大切にしたい「ことば」
- ⑥今できるアクション
- ⑦〇〇な自分にYES！
〇〇でGO！宣言

つかめ書を!
走れ書へ!!

幸雲南塾inさんべ

職業人から学んだこと



幸雲南塾inさんべ 大切にしたい
「ことば」



今できるアクション



〇〇な自分にYES!
〇〇でGO!宣言

塾長（雲南市長） 講話



***にこにこ広場**
(不登校児童生徒対象プログラム)

**不登校児童生徒がさまざ
まな体験を重ね、成就感を
味わい、自分の考え方や行動
に自信を持つことができる
ようになる。**

H23年度の活動計画

活動名	期日	概要
中山間地の豊かさを知る1	8月	瓦のロケットストーブを組立て、調理をしよう
中山間地の豊かさを知る2	9月	囲炉裏でぐるぐるパンとシシカバブーを作ろう
里山に入る	10月	里山の頂上でガトーショコラを作ろう
ノブヒエンを焼く	11月	瓦のロケットストーブでノブヒエン(パン)を焼こう
ロケットストーブをつくるて被災地に送る	12月 1月 2月	ペール缶でロケットストーブをつくり、震災被災地へ届けよう
自分の暮らしや自分の生きる社会を考え直す～体験を振り返って～	3月	ペール缶のロケットストーブで焼いたピザを多くの方にふるまおう 食事をしながら体験を振り返ってみよう

活動の様子 瓦のロケットストーブを組立て、調理をしよう



囲炉裏でぐるぐるパンとシシカバブーを作ろう

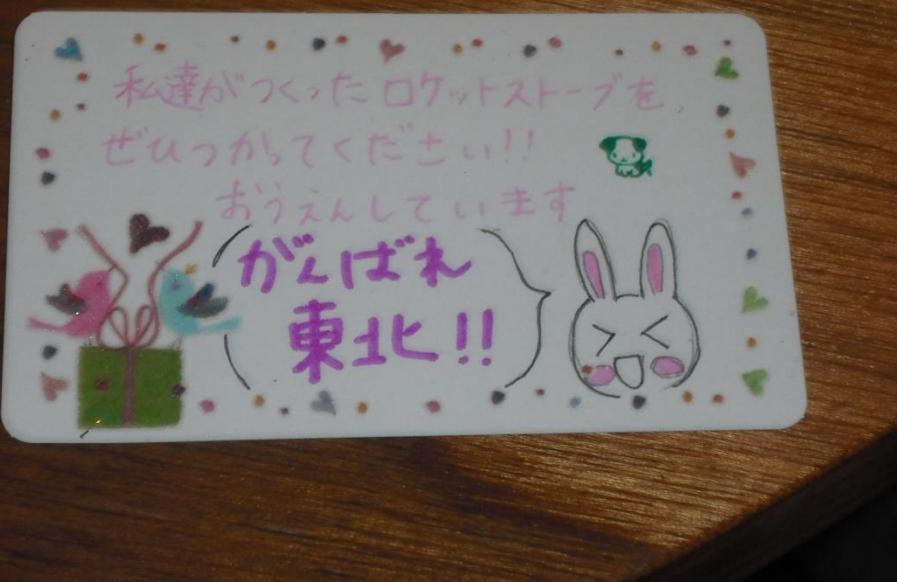


里山の頂上でガトーショコラを作ろう





ロケットストーブをつくって被災地に送る
手作りパンを売って義援金を被災地に送る



H24年度の活動計画

活動名	期日	概要
海で魚釣りに挑戦！	8月	「夢の森うさぎ」のキャンプ場でテントを張り、料理を作ったり、魚釣りをしたりする。
自然の中でのんびりすごそう	10月	「ふるさと森林公园」のキャンプ場にテントを張り、料理を作ったり、自然観察をしたりしながらのんびりとした時間を過ごす。
かまくらの中で、七輪でおもちを焼いて食べよう	2月	「グリーンシャワーの森」で巨大なかまくらをつくり、かまくらの中で七輪で焼いたお餅を食べる。
ロケットストーブでピザを作つて、保育所のクリスマス会でみんなにふるまおう。	3月	ロケットストーブを使ってピザを焼き、保育所のクリスマス会でふるまう。保育所の園児との交流も行う。



かまくらの中で、七輪でおもちを焼いて食べよう



ピザを作って保育所のクリスマス会でふるまおう



H25年度の活動計画

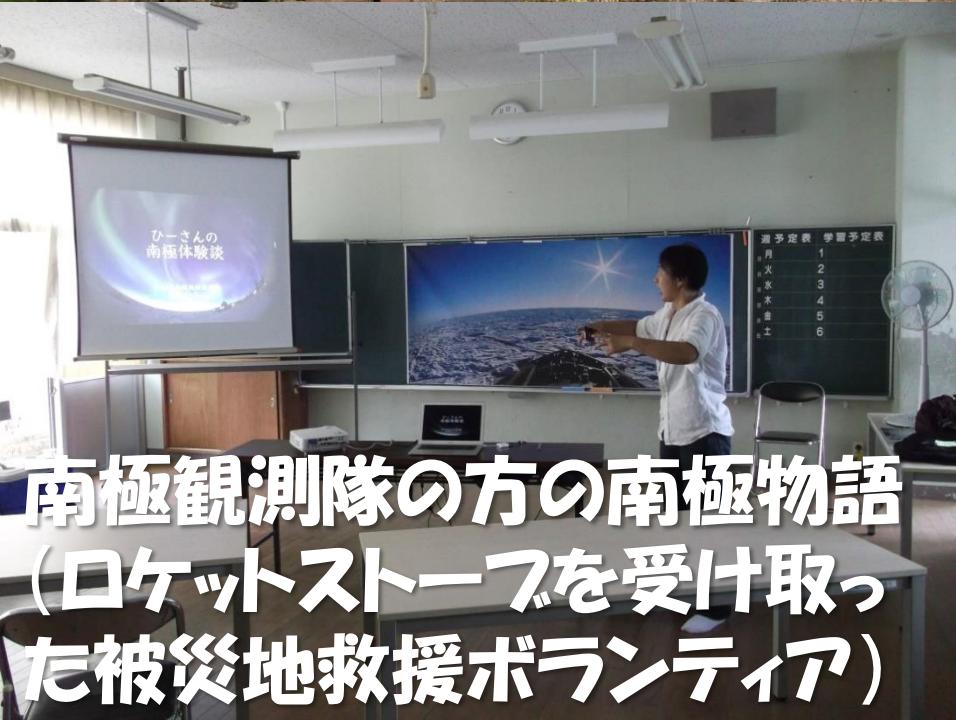
第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
1学期	2学期	3学期
自然体験活動	文化体験活動	しまね自然の学校と共催
7月、8月の隔週(3回)	9月～12月の隔週(10回)	1月、2月の毎週(5回)
<ul style="list-style-type: none">・南極体験談講座・南極の氷で流しそうめん・川遊び・魚釣り・野外での調理 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none">・楽器演奏・ダンス・影絵・クリスマス発表会 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none">・50年前のカメラの分解・カメラの修理・修理したカメラでの写真撮影 <p>など</p>



手作り竹ばしで食べる
そうめん流し



にこにこ発表会(影絵)



南極観測隊の方の南極物語
(ロケットストーブを受け取った被災地救援ボランティア)



もの壊し→もの作り→もの撮り

不登校児童生徒支援プログラムの成果

- ・不登校児童生徒のキャリア形成の場の提供
- ・不登校対策についての社会教育からアプローチ
- ・参加した児童生徒の変化

H23年 度	参加した児童・生徒12名(うち4名は卒業)のうち、3名が学校復帰、1名が復帰の兆候が見られた。
H24年 度	参加した7名(うち1名は卒業)の児童のうち2名が学校復帰の兆候が見られた。
H25年 度	参加者: 中学生8名(全員希望校へ進学) 小学生2名(現状のまま) ・学習、文化体験では、個々の目標をもって意欲的に活動していた。 ・活動の中での役割を果たしたり、誰かの役に立つ経験したことにより、自己肯定感を高めつつある。 ・ほとんど会話をしなかった子が、自分から話をするようになった。 ・多くの人と交わることでコミュニケーション能力を高めつつある。

* 今後の取組

○保幼小中高校の連携

『夢』発見プログラムの見直し

- ・高校生の欄の追加、乳幼児期の充実
- ・地域、幼保小中学校と高校が連携してキャリア形成を促す

土曜日授業の充実

- ・若手社会人による出前授業(高校・中3)
- ・体験活動プログラムの充実(小中学生)